

「革命的でない情勢」のもとでの共産主義者のたたかい方

……すでに革命が勃発し燃えあがっているときには、ただだれもかれも、熱情だけから、流行から、ときには立身出世のためにさえ、革命にくわわってくるときには、革命家になるのはわけではない。このようなえせ革命家から「解放」されるためには、プロレタリアートはあとで、勝利したのちに、もっともひどい努力をはらい、いわば殉教者の苦しみをなめなければならないであろう。直接の、公然たる、ほんとうに大衆的な、ほんとうに革命的な闘争の条件が**まだない**ときに革命家となりうること、革命的でなく、むしろしばしばまったく反動的な機関のなかで、革命的でない情勢のもとで、また革命的な活動方法の必要をすぐには理解することのできない大衆のあいだで、革命の利益をまもりうること（宣伝、煽動、組織によって）、このほうがはるかに困難であり、はるかに尊い。大衆をほんとうの、決定的な、最後の、偉大な革命的闘争へ**導いていく**具体的な道、あるいは事件の特別の転換を見つけだし、探りだし、正確に決めうること——まさにここに西ヨーロッパとアメリカのこんにちの共産主義の主要な任務がある。

その実例はイギリスである。われわれは、イギリスでほんとうのプロレタリア革命がいつ燃えあがるか、いまのところまだ眠っているきわめて広範な大衆を、**どんなきっかけ**がもっとも多く目ざめさせ、燃えさせたせ、闘争へ駆りたてることになるかを知ることができないし——だれも、まえもってきめることはできない。だから、われわれは（故プレハーノフがマルクス主義者であり、革命家であったときに好んで口にしたように）四本の足全部に装蹄しておく〔あらゆるばあいにそなえる〕といったふうに、われわれのすべての準備活動をすすめなければならない。議会の危機が「突破口をつくり」、「糸口をつける」かもしれない。手のつけようがないほどもつれており、ますます病根をふかくし、すどくなっている植民地と帝国主義の矛盾から危機が生じるかもしれない。また、第三のなにかがおこるかもしれない。われわれが問題にしているのは、どんな闘争がイギリスのプロレタリア革命の運命を**決する**かということではない（どの共産主義者も、この問題に疑いをもってはいない。この問題は、われわれすべてにとって解決されており、はっきりと解決されている）。われわれが問題にしているのは、いまのところまだ眠っているプロレタリア大衆を目ざめさせて運動に引きいれ、彼らを革命のま近に導く**きっかけ**のことである。たとえば、フランス・ブルジョア共和国では、国際的な側面からみても、国内的な側面からみても、現在の100分の1も革命的でなかった情勢のもとで、反動軍閥の何千という恥ずべき陰謀の一つ（ドレフュス事件）のような、「思いがけない」、「ちっぽけな」きっかけがあっただけで、国民を内乱寸前に導いたということを、わすれないようにしよう。

イギリスの共産主義者は、議会選挙をも、イギリス政府の 아일랜드 政策、植民地政策、世界帝国主義政策上のあらゆる急変をも、社会生活のその他のすべての分野、範囲、側面をも、たえまなく、うむことなく、確固として利用し、すべてこういう仕事では新しいやり方で、共産主義的なやり方で、第二インターナショナル流にでなく、第三インターナショナル流に活動しなければならない。私には、ここで議会選挙や議会闘争に「ロシア的に」、「ボリシェヴィキ的に」参加するやり方を述べる時間も紙面もないが、それが西ヨーロッパの普通の議会カンパニアには全然似ていないものであったということは、外国の共産主義者に断言することができる。このことから、しばしばつぎのような結論が引きだされ

ている。「なるほど、君たちのロシアではそうでしょうが、われわれの議会活動はちがいますからね」と。この結論はまちがっている。世界中に共産主義者がおり、あらゆる国に第三インタナショナルの支持者がいるのは、古い、社会主義的な、労働組合主義的な、サンディカリスト的な議会活動を、全線にわたって、生活のあらゆる分野で、新しい共産主義的な活動につくりかえるためである。ロシアの選挙にも、日和見主義的なもの、純粹にブルジョア的なもの、儲け主義的なもの、資本家的ぺてんふうのものがいつでも非常にたくさんあった。西ヨーロッパとアメリカの共産主義は、新しい、ありきたりのものでない、日和見主義的でない、立身出世主義的でない議会活動をつくりだす道をまなばなければならない。つまり、共産主義者の党は自分のスローガンをかかげ、ほんとうのプロレタリアは、まったく打ちひしがれた未組織の貧民の助けをかりてビラをまいたり、くぼったりし、労働者の住居、農村プロレタリアと人里はなれた（さいわいなことにヨーロッパでは、^{へんび}辺鄙な農村がわが国よりはるかにすくなく、イギリスではまったくすくない）農民の小屋を歴訪し、もっとも庶民的な居酒屋にはいり、もっとも庶民的な組合、協会、そのときどきの集合（集会？…青山）にうまくはいりこみ、学者ぶらずに（またあまり議員ぶらずに）民衆と話をし、「議席」などをすこしも追いもとめず、いたるところで思想を目ざめさせ、大衆を引きつけ、ブルジョアジーの言質をとらえ、彼らがつくった機関、彼らが指定した選挙、彼らが全人民にした呼びかけを利用し、選挙のとき以外には（もちろん、大ストライキのときは考慮にいていない。このときはわが国でも同じような全人民的な煽動機関がもっと強力に活動した）とうていできない（ブルジョアジーの支配のもとでは）ようなやり方で、人民にボリシェヴィズムを知らせなければならない。西ヨーロッパとアメリカでこういうことをやるのは非常に骨が折れ、まったく骨が折れる。しかしそうすることはできることであり、またしなければならないことである。というのは、共産主義の任務一般を骨を折らずに解決することはできないのに、ますます多様になっていき、社会生活のあらゆる部門とますますつながっていき、一部門、一分野をつぎつぎに**ブルジョアジー**の手からたたかいとっていく**実践的な**任務を解決することに、骨を折らなければならないからである。

同じイギリスでは、同じように新しいやり方で（社会主義的なやり方でなく、共産主義的なやり方で、改良主義的でなく、革命的に）、軍隊のなかで、また「自」国の抑圧されている、完全な権利をもっていない民族（アイルランド、植民地）のあいだで、宣伝、煽動、組織の活動を取りあげなければならない。なぜなら、一般に帝国主義の時代には、とくに諸国民を疲弊させ、急速に真理（すなわち、数千万の人間が殺され、かたわにされたのは、イギリスとドイツの強盗のどちらがよけいに諸国を略奪するかという問題を解決するだけのためであったということ）を見る目をひらいている戦争後のいまでは、社会生活のこれらすべての分野には、燃えやすい材料がとくにいっぱいつまっており、紛争や危機のきっかけ、階級闘争の激化のきっかけが、とくに数多くつくりだされているからである。われわれは、いま経済と政治の世界的な危機に影響されて、あらゆる国で四方八方に飛び散っている無数の火花のうちのどれが、炎となって燃えあがる——大衆をとくに目ざめさせるという意味で——ことになるかを知らないし、また知ることもできない。だから、われわれは、自分の新しい共産主義的な原理によって、ありとあらゆる活動場面を、たとえきわめて古い、陳腐な、一見したところでは見込みがないような場面でも、つくりかえる

仕事に取りかからなければならない。なぜなら、そうしないと、われわれは自分の任務をはたすことができず、全面的な知識をもつことができず、あらゆる種類の武器をつかひこなすことができず、ブルジョアジー（彼らは、社会生活のあらゆる側面をブルジョア流に整えたが、いまそれをブルジョア流にかきみだしている）に勝つ準備を整えることもできないし、この勝利ののちに全生活を将来共産主義的に再組織する準備を整えることもできないからである。……………

もちろん、ブルジョアジーの支配のもとでは、自分の党、すなわち労働者の党のなかにあるブルジョア的な習慣に打ち勝つことは、非常に「困難」である。ブルジョア的偏見で手のつけられないほどだめにされている因襲的議会指導者を党から追いだすことは「困難」である。絶対に必要な数（ごく限られているとはいえ一定の数）のブルジョア出身者をプロレタリア的規律にしたがわせることは「困難」である。労働者階級にまったくふさわしい共産党議員団をブルジョア議会内につくることは「困難」である。共産党議員がつまらないブルジョア議会遊びにふけらないで、大衆のあいだの宣伝、煽動、組織というもっとも緊急な活動にたずさわるようにさせることは「困難」である。すべてこうしたことが「困難」なことはいうまでもない。ロシアでも困難であった。ブルジョアジーがはるかに強く、ブルジョア民主主義的な伝統その他がもっと強い西ヨーロッパとアメリカでは、比べものにならないほど困難であろう。

しかし、すべてこれらの「困難」は、プロレタリアートがプロレタリア革命のときにも、プロレタリアートが権力をにぎったあとにも、勝利のためにはどのみちどうしても解決しなければならない、まったく同じ種類の任務にくらべると、まったく子供だましの困難である。プロレタリアートの独裁のもとで、何百万という農民や小経営主、何十万という勤務員、役人、ブルジョア・インテリゲンツィアを教育しなおし、彼らをすべてプロレタリア国家とプロレタリアートの指導にしたがわせ、彼らのブルジョア的な慣習と伝統を征服しなければならない、というこれらの真に巨大な任務にくらべると、ブルジョアジーの支配のもとでブルジョア議会のなかには、ほんとうのプロレタリア党の真の共産党議員団をつくることは、子供じみたほどたやすい仕事である。

1920年4月～5月に執筆

第31巻『共産主義内の「左翼主義」小児病』P86～89、105

ポイント

新しい、ありきたりのものでない、日和見主義的でない、立身出世主義的でない議会活動必要である。つまり、共産主義者の党は自分のスローガンをかかげ、ほんとうのプロレタリアは、まったく打ちひしがれた未組織の貧民の助けをかりてピラをまいたり、くばったりし、労働者や農民の住居を歴訪し、もっとも庶民的な居酒屋にはいり、もっとも庶民的な組合、協会、そのときどきの集会にうまくはいりこみ、学者ぶらずに（またあまり議員ぶらずに）民衆と話をし、「議席」などをすこしも追いもとめず、いたるところで思想を目ざめさせ、大衆を引きつけ、ブルジョアジーの言質をとらえ、彼らがつくった機関、彼らが指定した選挙、彼らが全人民にした呼びかけを利用し、ブルジョアジーの支配のもとでは選挙のとき以外にはとうていできないようなやり方で、人民にボリシェヴィズムを知らせなければならない。つまらないブルジョア議会遊びにふけらないで、大衆のあいだの宣伝、煽動、組織というもっとも緊急な活動にたずさわる、労働者階級にまったくふさわしい共産党議員団をブルジョア議会内につくる必要がある。